

## 35 タイムスリップ

場面：ラジオドラマ (SF)

状況：山口ショウが未来へタイムスリップしてしまい、少年レイと出会う物語。ナレーションあり

登場人物：A (女性、ナレーター)

B (男性、タイムスリップした男 (山口ショウ))

C (男の子、未来人 (山口レイ))

A：ショウは友達と出かけた帰り、電車の中で寝てしまった。しばらくして目が覚めると、知らない駅にいた。  
(街の雑踏)

B：ここは…どこだ??

(未来っぽい音・街の雑踏)

A：そこは、見たことがないデザインの建物で、外を見ると、車のような乗り物が空を飛んでいる。映画で見る「未来の世界」のようだった。

B：ええと、スマホスマホ・・・

A：ポケットに入っているはずのスマホが入っていない。

B：こまったな…ここがどこかわかんないし、スマホもないし…

A：そこへ、10歳くらいの男の子がやってきた。ショウはこの男の子を見たとき、「どこかで会ったことがある」と思った。

そして、その男の子もショウを見て、ちょっと驚いた顔をしていた。ショウの顔は、男の子のうちにある写真の、家族の顔ととてもよく似ていたのだ。

C：どうかしましたか?

B：あ、あの一、気が付いたらここにいて…ここってどこ?

C：え?ここは、ニュートーキョーシティだけど…。

B：ニュー…?あの、ちなみに今って、西暦何年?

C：2077年だけど?

B：えええ!に、にせんなじゅうなな…???

C：なんでそんなにびっくりしてるの…?お兄さん、どこからきたの?

B：僕は、2025年の東京から…

C：ええっ!?お兄さん、名前は?

B：山口ショウです。

C：(ハッ)

A：男の子は驚いて目を大きくして言った。

C：ぼくのおじいちゃんとおんなじ名前だ!ぼくの名前は、山口レイだよ!